

気になる生徒に身につけさせたい社会性 ～ソーシャルスキル・トレーニング～

名城大学 曾山和彦
2010.8.16(秋田)

1

人が「人」になりにくい現代社会

環境の変化

- 情報化、スピード化
- 三間(時間、空間、仲間)の消失
- 核家族化 等

昔に比べ、人と人のかかわりが不足

子どもも大人も、「人」になりにくい

2

人が「人」になるには人が必要

- 人は、人の中で、「人」になる

かかわり体験を通して

自己理解、自己受容、
社会性、等の促進

今、学校存在の一つの意義
「人のなか」(集団)を活用することができる

3

「人」になっていない子どもの問題

- 人とかかわるコツ・技術が身につけていない
(乏しいソーシャルスキル)
- 今の自分にOKと言えない(低い自尊感情)

・相手をやっつける、消す いじめ問題
・自分が消える 不登校問題
・気になる子にちょっかいを出す
通常学級における特別支援教育問題

4

気になる子どもへの支援方策

「ソーシャルスキル」、「自尊感情」が落ち込んでい
るのではないか

人の中で、「人」になるように支援

・対人関係のコツ(技術)を身につけさせる
・自分に「OK!」と言えるようにする

どんな手を使ってもいい。教師の腕の見せどころ

5

「人」になりきれていない大学生 ～大学の講義から～

- 一人だけでポツンと座っている学生
- 「自分のことが大嫌い」という学生
- 「チャム(親友)」から「ピア(仲間)」に移行し
ていない学生
- 演習等でのかかわりが苦手な学生 等々

先生、大学の普通の講義をしてください。人との
かかわりなんて自分が教壇に立てば教えられる。

6

居心地のよい「人の中」とするために

- ルールづくり
- ふれあい(リレーション)づくり

レポートとの違いは？

プラグマティズムで行こう！

教育のプロとして腕の見せどころ

- ・使えるものは何でも使え
- ・役に立つ知識こそ真の知識

居心地のよい「人の中」(集団)であれば、人は「人」になりやすい

7

マズローの欲求階層説

参考

- 第一欲求(生理的)が満たされると、第二欲求(安全・安定)が生じ、これも充足されると第三欲求へ進む。上位欲求は下位欲求がたとえ部分的にせよ満たされて初めて発生する

ふれあい

ルール

自己実現

自尊・承認

所属・愛情

安全・安定

生理的

私の腕の見せどころ

- 大学講義でも、講演等でも、その場の空気が和み、居心地がよくなるように必ずやっていることがある
- エンカウンターやソーシャルスキル・トレーニングのねらいを軽く取り込みながら、大きなねらいとしては「雰囲気づくり」

Let's Try!!

ネームゲーム&質問ジャンケン

9

ソーシャルスキルとは何か

社会性。体験を通して学んだ人づきあいのやり方

コミュニケーションスキル(あいさつ、自己紹介、聴き方、質問) 受容・遊び参入スキル(誘い方、入り方) 受容・共感スキル(言葉のかけ方、働きかけ) 主張スキル(頼み方、断り方、アサーション) 問題解決スキル(トラブル解決策の考え方) <小林>

配慮のスキル~対人関係の基本的マナー かかわりのスキル~人とかかわるきっかけ、関係維持スキル <河村>

10

ソーシャルスキルを育むには

学んでいないなら学ばいい、間違っ覚えてるなら学び直せばいい

行動理論(学習理論)がベース

ソーシャルスキルは児童期に最も発達する。特に小2~小5の時期が大切

11

社会性発達の質的变化~10歳前後

- 10歳前後を境に、道徳性(大人に委任→自分で判断)、友人・母親関係(母への同調→友人への同調)が質的に変化する。
- 10歳までの「教える生徒指導」、10歳からの「考えさせる生徒指導」

・小学校段階で、いかに心地よくスキルを教えるか
・気になる子どもは、より、スキル習得が大切

12

強くなる「オニの心」(勝手な振る舞い等)

- 「オニの心」の鎮め方を教えるべき時に教えておかないと、次第に「オニの心」は強くなる。「人」になりきれないまま、成長する。

大人が子どもの「オニの心」を鎮める・鎮め方を教えるために必要な手数は
<小学生には10の手数で済む>
<中学生には50の手数が必要>
<高校生には100の手数が必要>

13

ソーシャルスキル・トレーニング(SST)

してみせて 言って聞かせて させてみて
ほめてやらねば 人は動かず

<基本展開>

1. インストラクション(言語教示)
2. モデリング(示範)
3. リハーサル(実行)
4. フィードバック(評価)



14

気になる児童が溶け込む実践:A小学校 「人づきあいのコツを学ぶSSTタイム」

- 全学年が年間を通じて、毎週金曜の朝の短学活15分を使い、SSTに取り組む。

SSTタイム継続により、授業中の子ども同士のかかわり方もとてもよくなった。自分の考えに固執せず、柔軟な考えをもつ子どもが増えてきた(教師による行動観察記述)

演習 「伝われ、私のありがとう」& 「二者択一」

拙著「時々“オニの心”」(明治図書)に詳細を掲載

15

本で教えるソーシャルスキル

参考

周囲の児童の行動変容があり、
気になる児童(小4)の暴言も改善

ロン・クラーク著
「みんなのためのルールブック」

人付き合いのコツがイラストを通して楽しく学べる。



アサーションの定義と 三つのコミュニケーションスタイル

- 定義; 自己尊重のコミュニケーションスタイル

「受け身的」~ 相手を大切にしようとするが自分の気持ちや意見を大切にしないスタイル

「攻撃的」~ 自分の考えや意見が唯一絶対正しいものであって、相手の気持ちはあまり重要ではないか、間違っていると決めつけて相手を大切にしないスタイル

「アサーション」~ 自分も相手も大切にするスタイル

17

めざせ! アサーティブ 1 ~ 三部構成の対決アイメッセージ ~

行動

相手の行動を非難がましくなく描写する

影響

相手の行動が自分に与える影響を伝える

感情

その影響が自分に抱かせる感情を伝える

めざせ！アサーティブ 2

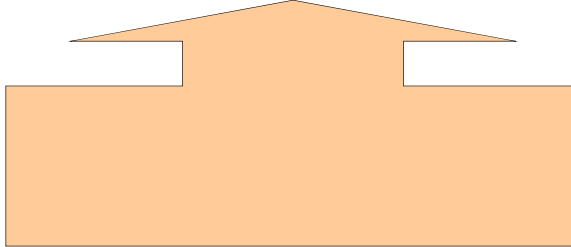
～DESC法～

- D (describe; 記述する) ~ 状況を客観的に述べる
- E (express, explain; 説明する) ~ 自分の主観的な気持ちとその背景を述べる
- S (specify; 提案する) ~ 相手の望む行動に対して具体的な提案をする
- C (choose; 選択する) ~ 相手の返答に対する次の自分の行動を決めておき、選択する。「No」なら代案を出す、「Yes」なら感謝の言葉をかける、等

19

気になる子の社会性を育む 最強・最高のSST

- 教師のモデリング; 教師という「教材」



・あいさつ(おはよう、さようなら)、あたたかい言葉のかけ方(ありがとう、よろしく)、話の聴き方(笑顔、うなずき)、頼み方・断り方等をどれくらい見せているか

20

参考文献

- 学級再生(小林正幸)
- カウンセリング入門(河合隼雄)
- 社会性を育てるスキル教育 中学3年生(清水井一)
- 発達を考えた児童理解・生徒指導(川島一夫)
- グループ体験による学級育成プログラム(河村茂雄)
- 時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング(曾山和彦)

21